

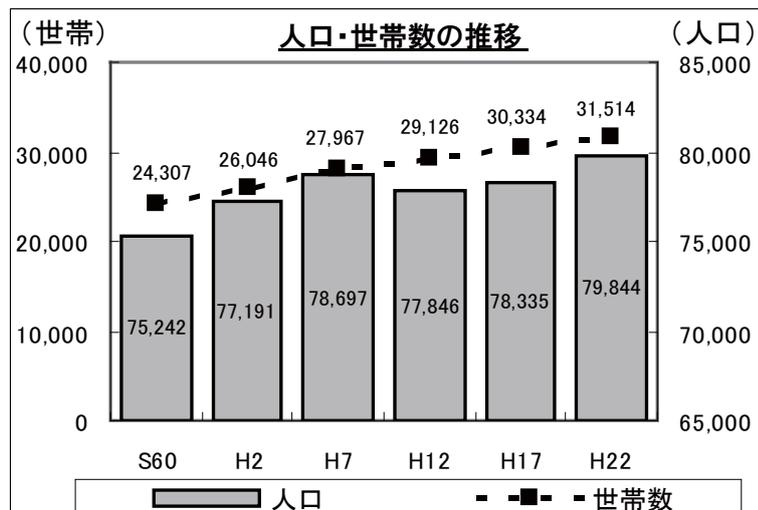
資料

(1) 人口・土地利用

【人口・世帯数】

人口は、概ね増加の傾向となっており、平成22年では79,844人となっています。

一方、世帯数についても増加傾向が続いており、平成22年では31,514世帯となっています。

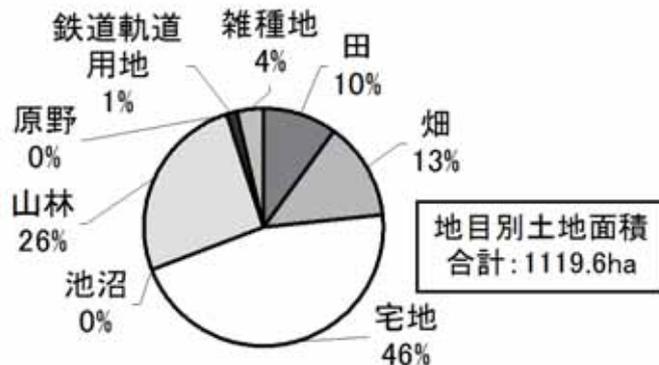


資料：国勢調査

【地目別土地面積】

地目別土地面積は、宅地が最も多く46%を占めており、次いで山林が26%、畑13%、田10%と続いています。

地目別土地面積(平成22年)



資料：市統計書

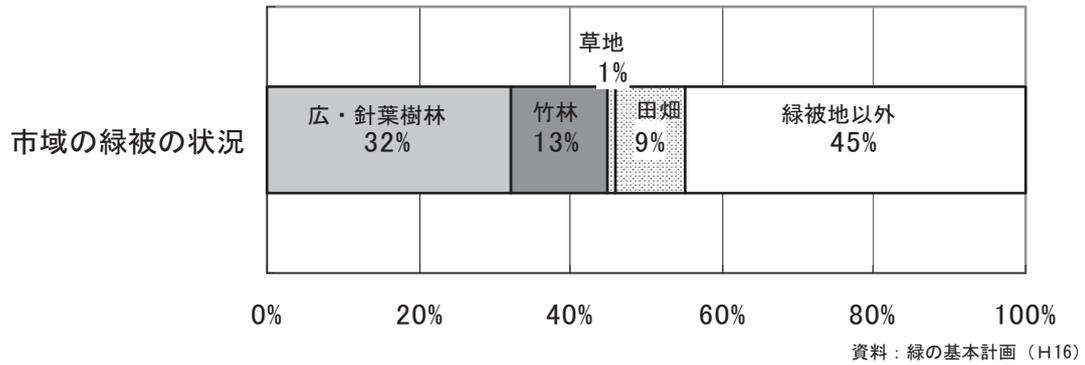
(2) 緑

【市域全体・西山の緑被の現況】

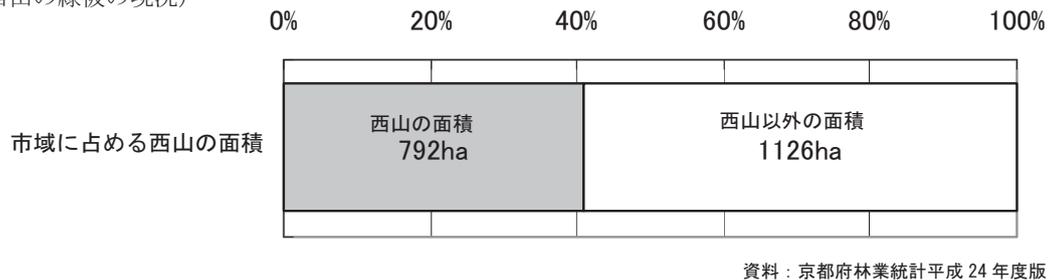
長岡京市は、市域の約55%が緑被地となっており、西山の樹林や竹林が市域の4割を占めています。

また、市域全体の緑被面積に占める西山の緑被面積は7割を超えています。

(市域全体の緑被の現況)



(西山の緑被の現況)

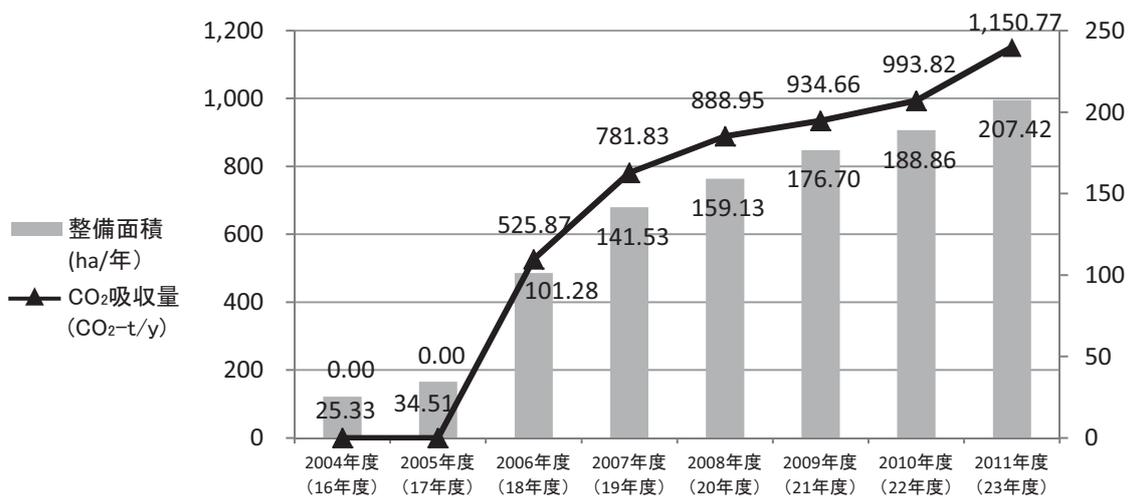


【森林整備の状況】

長岡京市では、平成18年に「西山森林整備構想」がまとめられ、構想に基づいた森林整備が行われています。

西山の森林整備面積について、平成16年度から23年度までの累計値は207.42haとなっており、森林整備に伴うCO₂吸収量は1150.77CO₂-t/yとなっています。

(西山の森林整備面積及びCO₂吸収量)(累計)

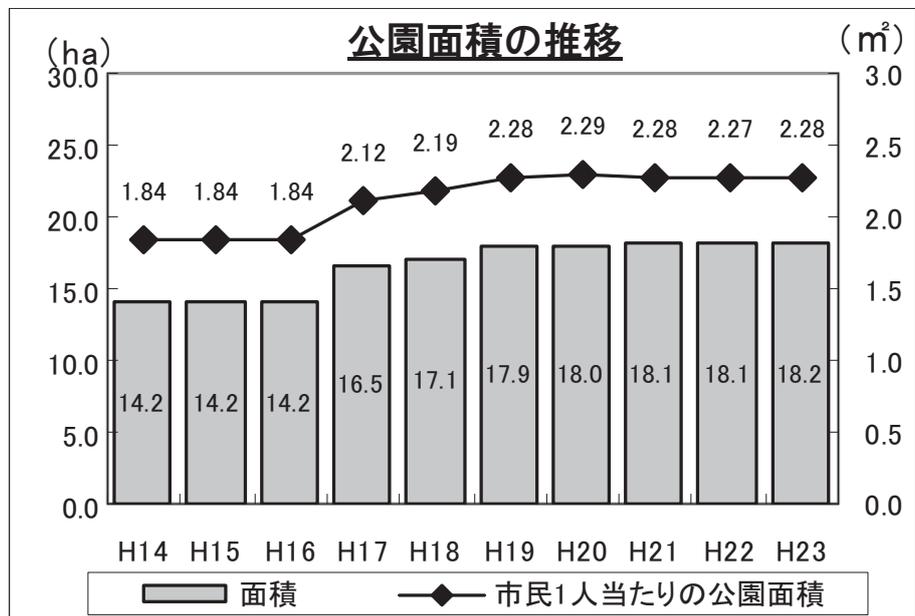


資料：農林振興課

【公園面積の推移】

公園面積は平成23年で18.2haとなっており、一人当たり公園面積は2.28㎡となっています。

(参考：京都府一人当たり公園面積 7.23㎡)



資料：市統計書

(3) 水（水道、雨水利用）

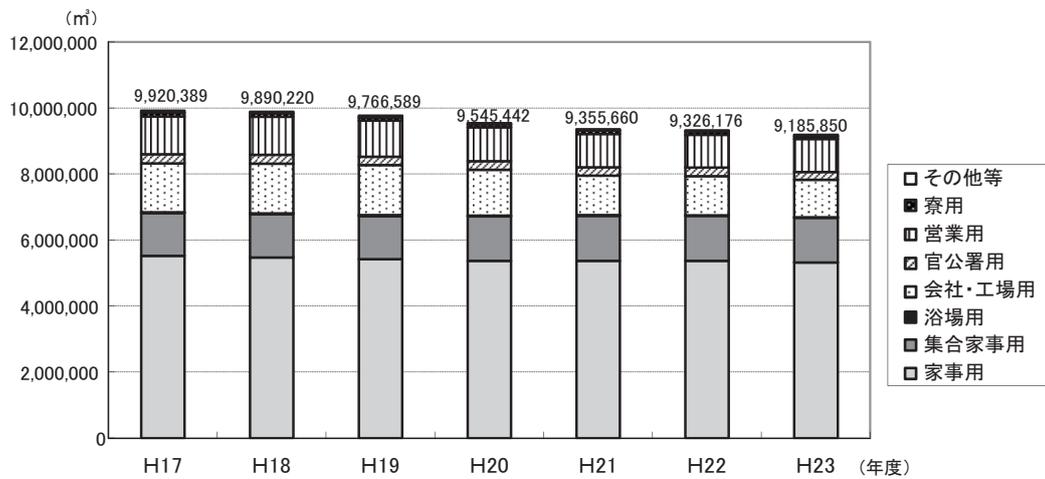
【上水道】

上水道使用量は減少の傾向がみられ、平成23年度は9,185,850^m³となっています。

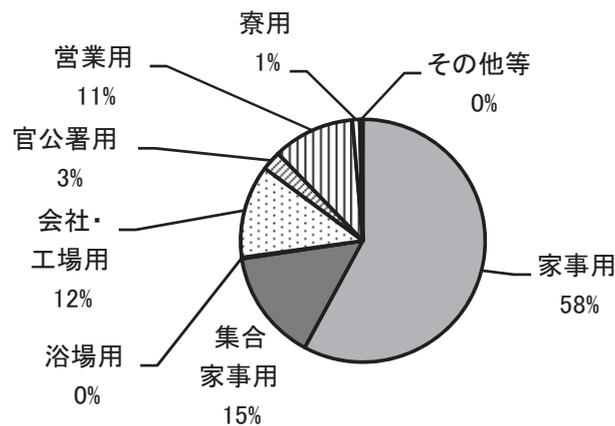
内訳をみると、家事用が7割以上を占め、会社・工場用12%等となっています。

また、給水量の推移と水源別の割合をみると、給水量は減少の傾向がみられるとともに、地下水と府営水のブレンド率について、平成23年度では、府営水ブレンド率が44.5%（一般用）となっています。

（上水使用量）

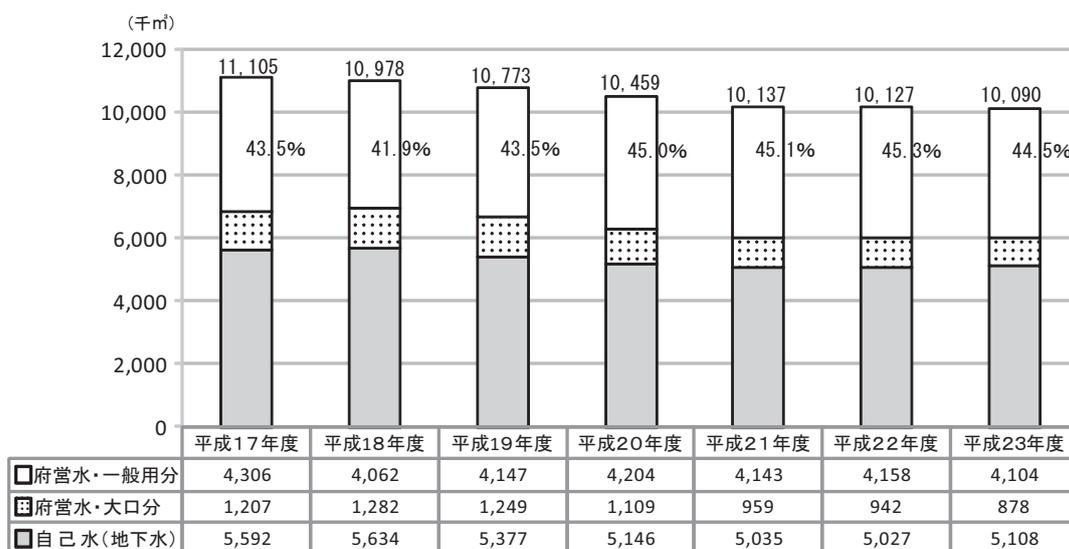


上水道の用途別使用割合(平成23年)



資料：長岡京市水道統計期報

(給水量と水源別内訳の推移)

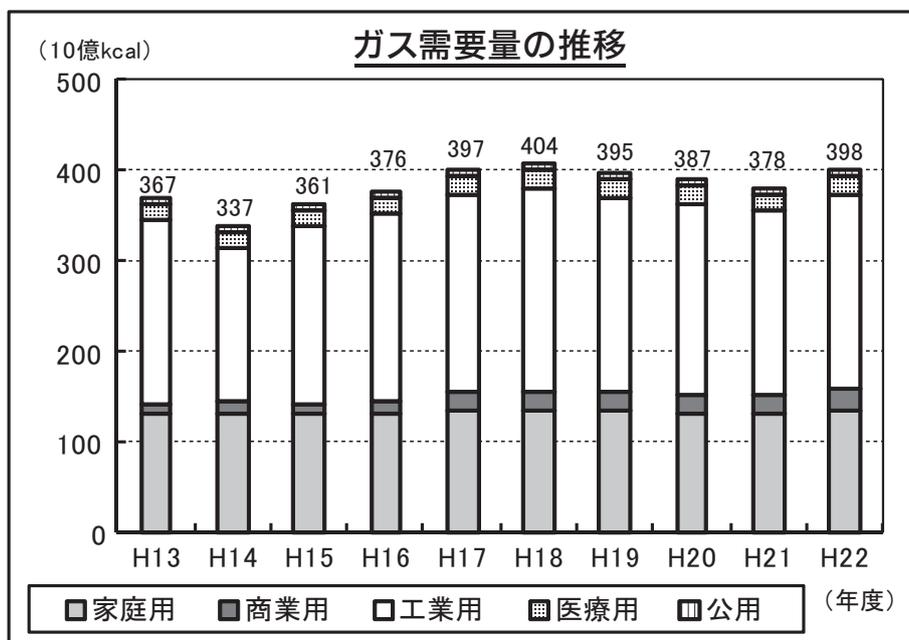


資料：水道事業年報

(4) エネルギー

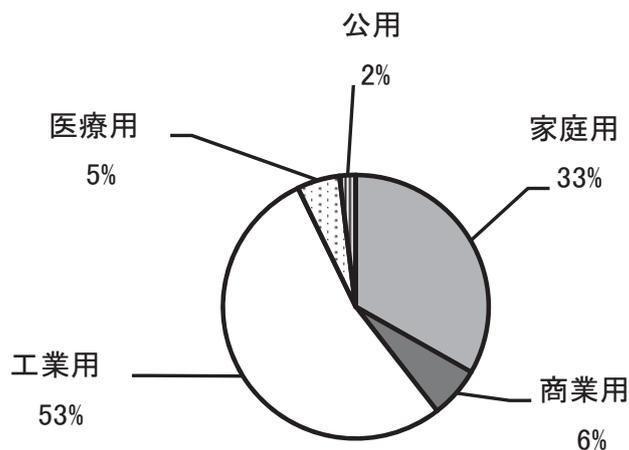
【ガス】

ガス需要量について、近年は減少傾向がみられ、平成22年度は3980億kcalとなっています。内訳をみると、工業用が55%、家庭用が33%などとなっています。



資料：市統計書

ガスの用途別使用割合(平成22年度)

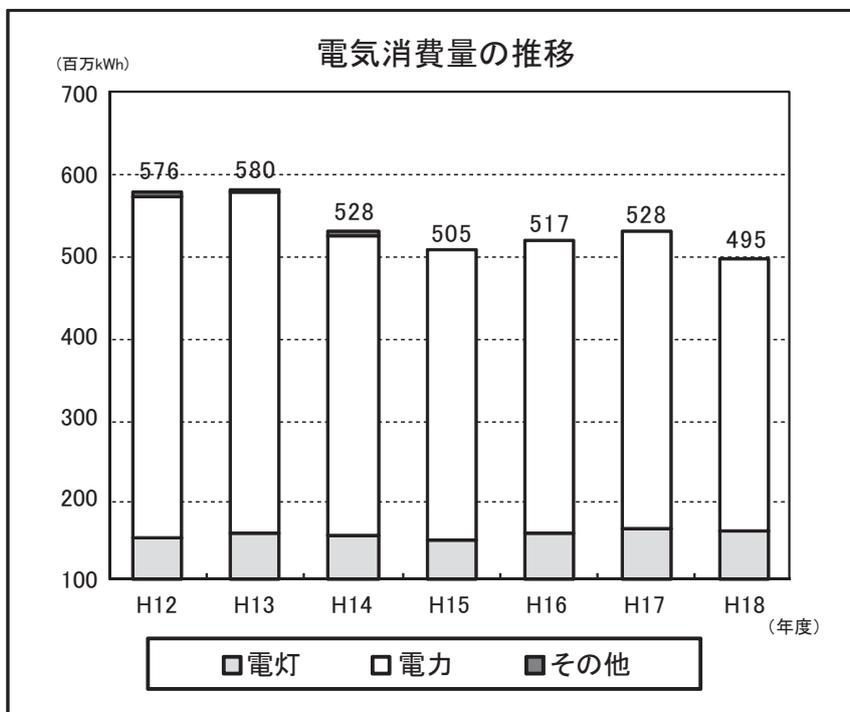


資料：市統計書

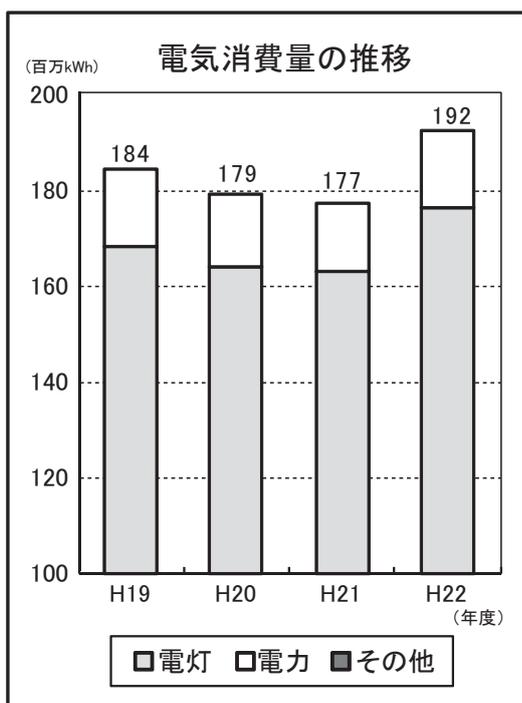
【電気】

電気消費量をみると、概ね減少の傾向が見られ、平成18年は4億9500万kWhとなっています。なお電気消費量について、平成19年度から自由化分野を除く規制分野のみのデータとなっており、平成21年度までは減少の傾向となっていましたが、平成22年度は増加に転じています。

◇平成12年度～平成18年度



◇平成19年度～平成22年度



※平成19年度より電力は、自由化分野を除く規制分野のみ

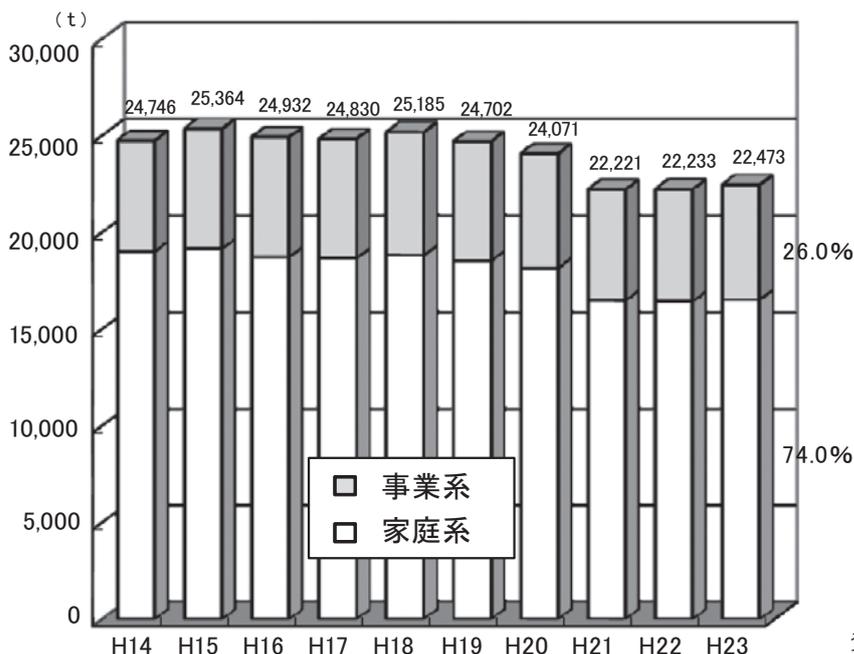
(5) ごみ

【ごみ排出量】

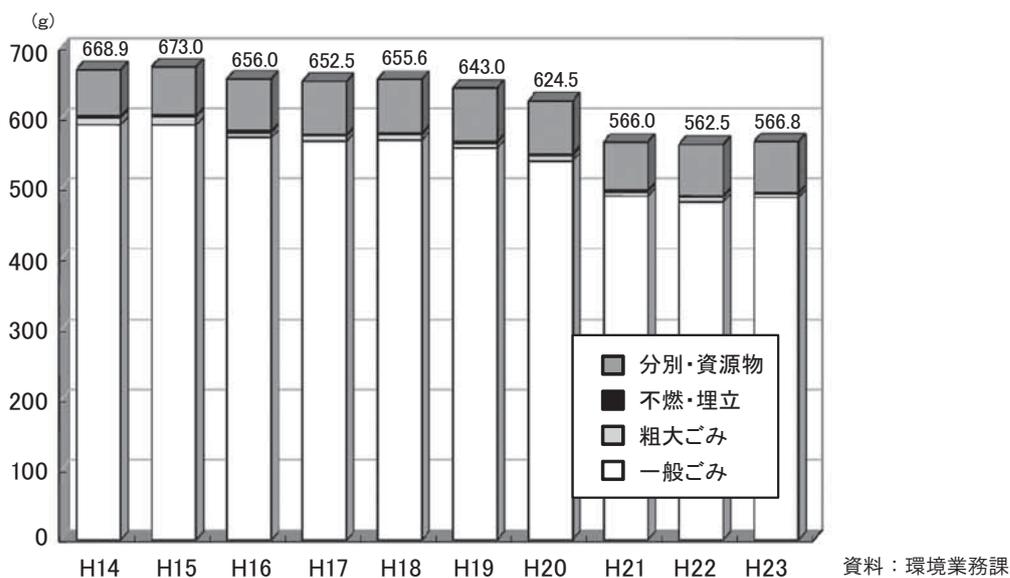
ごみ排出量をみると、近年は減少の傾向が見られ、平成23年度には22,473tとなっており、家庭系ごみの割合は74.0%となっています。

家庭系ごみの1人当たり1日排出量についても減少の傾向がみられ、平成23年度には566.8gとなっています。

(事業系・家庭系ごみ排出量の推移)



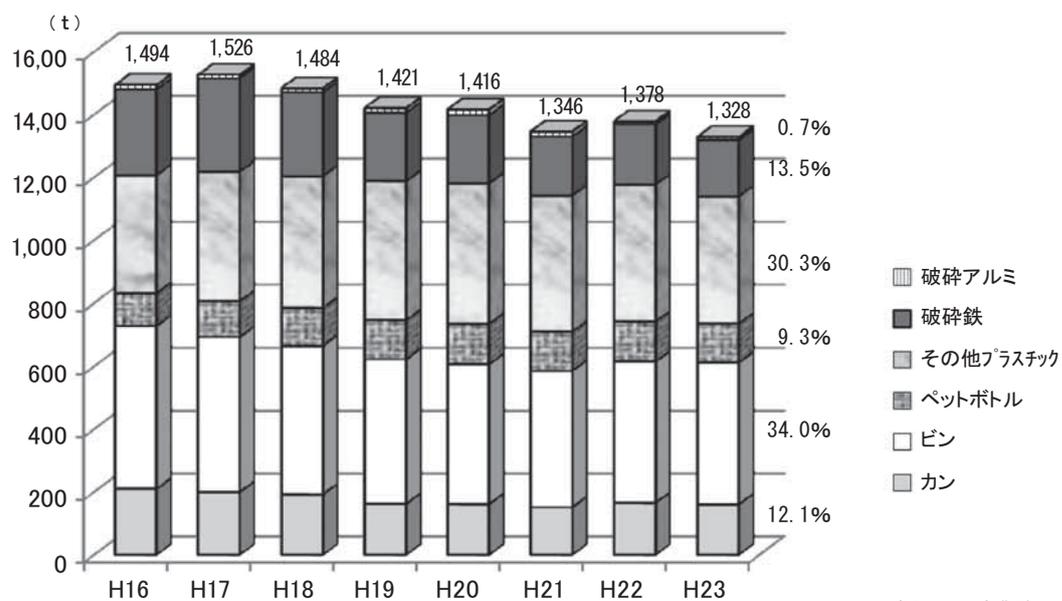
(家庭系ごみ1人当たり1日排出量の推移)



【資源化】

ごみの資源化の状況を見ると、資源化量は増減を繰り返しており、平成23年度では1,328 t となっています。その内、最も多いのがビン (34.0%)、次いでその他プラスチック (30.3%)、破砕鉄 (13.5%) などとなっています。

(資源化量推移)



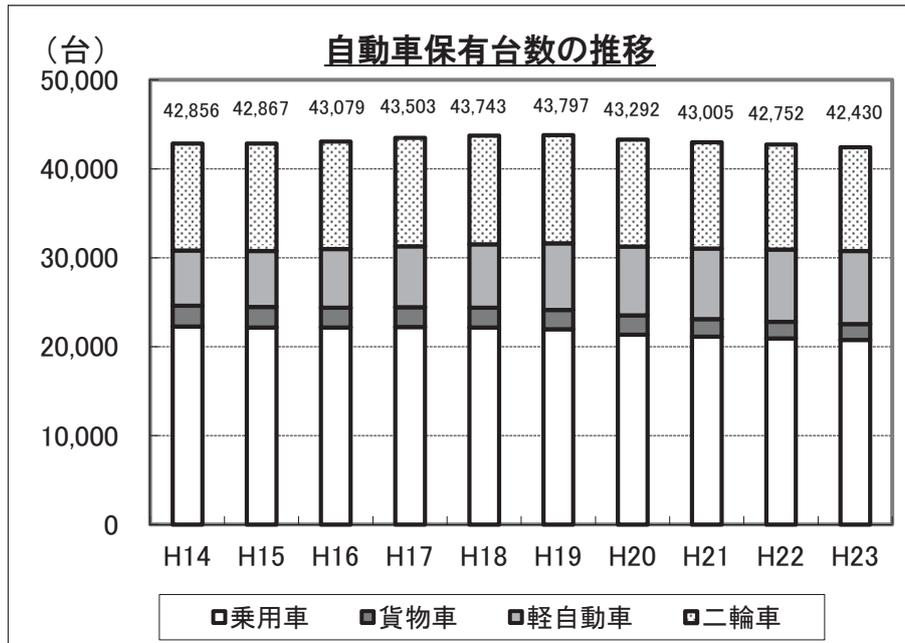
資料：環境業務課

(6) 交通

【自動車保有台数】

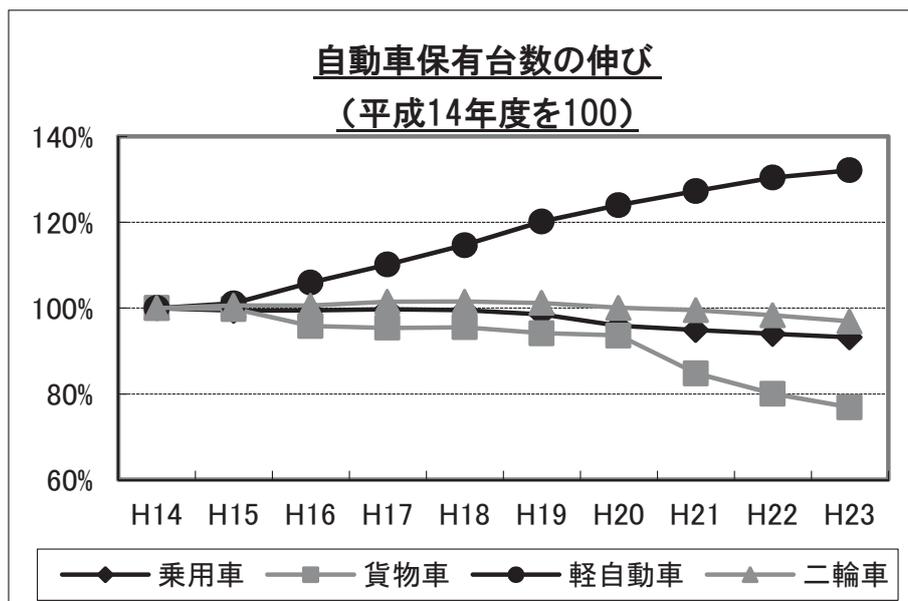
自動車の保有台数は、概ね横ばいが続いていますが、近年は微減の傾向が見られ、平成23年度は42,430台となっています。

種類別の伸びを見ると、軽自動車の保有に伸びが見られます。



※各年乗合自動車（バス等）、特殊・その他を除く

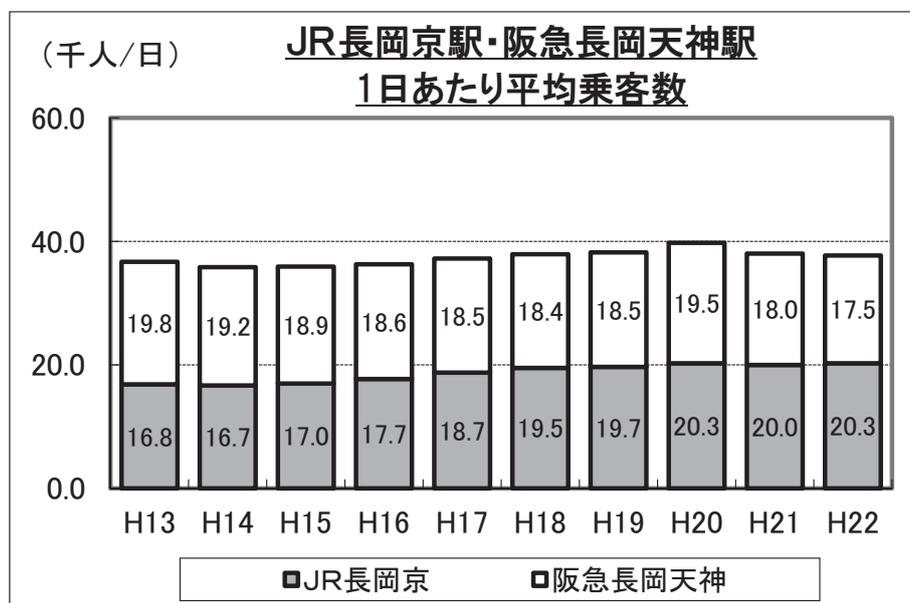
資料：市統計書



資料：市統計書

【鉄道】

J R長岡京駅、阪急長岡天神駅の1日あたりの平均乗客数をみると、J R長岡京駅については、概ね増加の傾向がみられ、平成22年度は1日あたり2.03万人となっています。阪急長岡天神駅については、増減を繰り返しており、平成22年度は1日あたり1.75万人となっています。



資料：市統計書

(7) 各種調査の結果

①市民意識調査

1) 調査の目的

この調査は、「長岡京市環境基本計画」の改定に向けた基礎資料として、長岡京市の環境づくりに係る市民意見を把握する目的で実施しました。

2) 調査の対象

【調査対象】長岡京市在住の16歳以上の市民

【選定方法】長岡京市住民基本台帳から無作為抽出数：2,000人、
抽出基準日：平成23年8月1日

3) 調査の方法

調査は無記名とし、平成23年8月19日（金）～9月16日（金）を調査期間として、郵送により実施しました。

4) 回収の状況

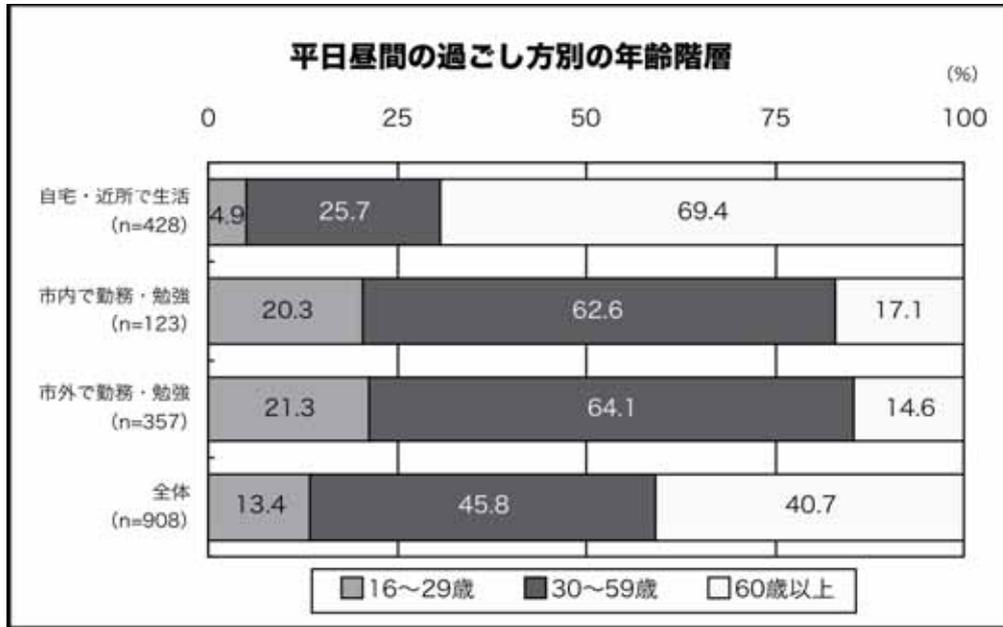
回収数は952件。すべて有効回答であり、有効回答率47.6%を得ました。

調査結果の表記について：百分率については、調査の有効回答数（N）、あるいは当該設問の回答数（n）を基数として算出。小数点第2位以下を四捨五入しているため、それぞれの数字の合計が必ずしも100.0%にならない。また、グラフまたは表内に示した記号のうち、SAは単数回答、MAは複数回答を示す。

◆調査結果の概要

1) 回答者属性

回答者の年齢構成をみると、30～59歳が45.8%、60歳以上が40.7%、16～29歳が13.4%などとなっています。平日昼間の過ごし方別にみると、「自宅・近所で生活」している人のうち、約7割が60歳以上となっています。



2) 身近な環境の満足度

「総合的にみた「身近な環境」」についてみると、「まあ満足している」が65.8%となっている。加重平均を求めて項目間を比較すると、「西山など多自然環境の身近さ」について満足度が大きく、「災害・犯罪・交通事故等の危険がないこと」「騒音・振動などがないこと」「近所付き合いなど近隣の人間関係」などで小さくなっています。



※「不満である (-2)」「やや不満である (-1)」「どちらともいえない (0)」「まあ満足している (1)」「満足している (2)」の加重評点を与えて平均値を算出したものをプロットしている。

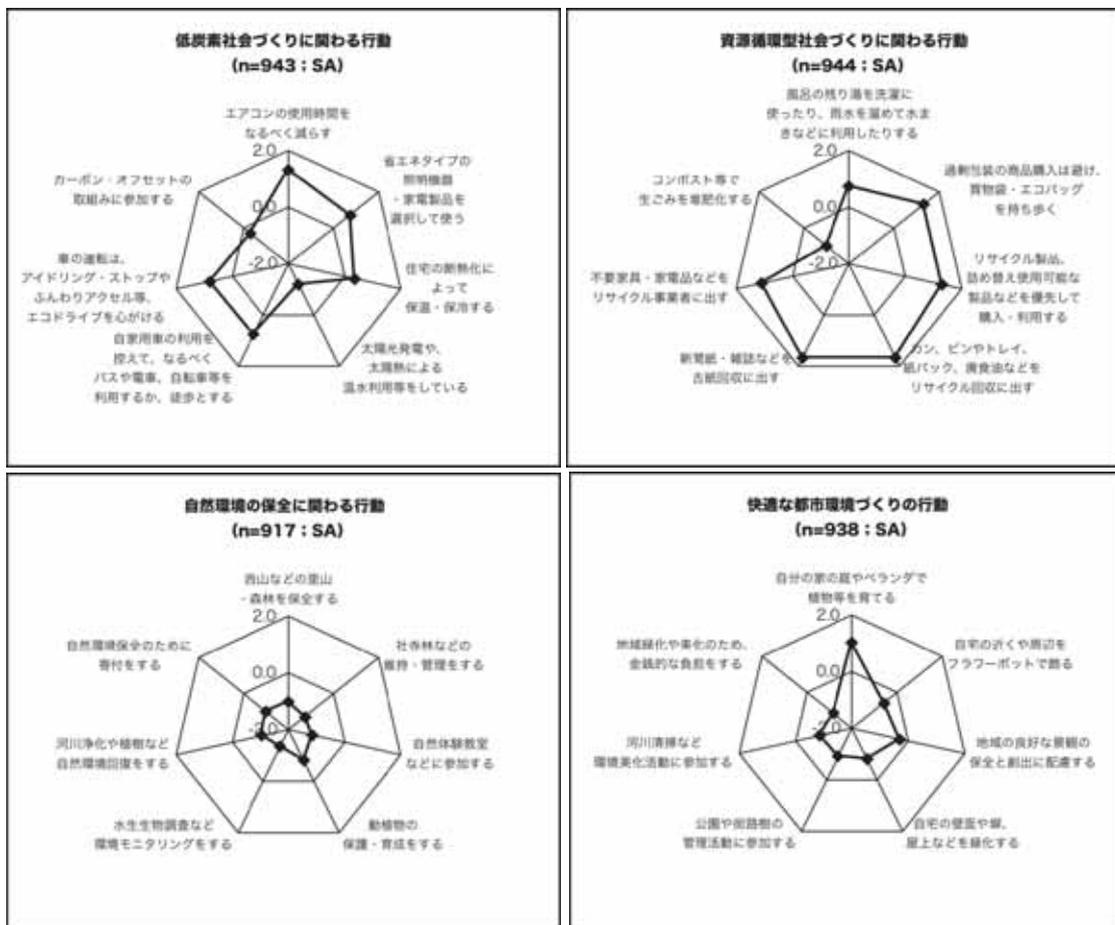
3) 市民による環境づくりの行動の取組み程度

「低炭素社会づくりに関わる行動」についてみると、「エアコンの使用時間をなるべく減らす」で取組み程度が比較的大きく、「太陽光発電や、太陽熱による温水利用等をしている」「カーボン・オフセットの取組みに参加する」などで小さくなっています。

「資源循環型社会づくりに関わる行動」についてみると、「コンポスト等で生ごみを堆肥化する」で取組み程度が比較的小さくなっているが、その他の項目では大きくなっています。

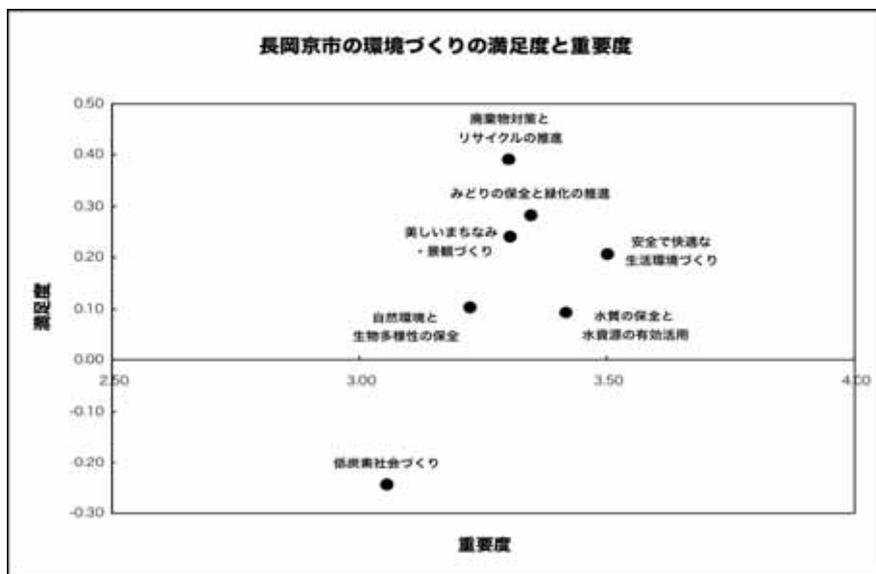
「自然環境の保全に関わる行動」についてみると、総じて取組み程度が小さくなっています。

「快適な都市環境づくりの行動」についてみると、「自分の家の庭やベランダで植物等を育てる」で取組み程度が比較的大きくなっているが、その他の項目では小さくなっています。



4) 長岡京市の環境づくりの満足度と重要度

長岡京市の環境づくりについて、現在の満足度と今後の重要度の関係を見ると、「低炭素社会づくり」について、満足度・重要度がともに小さくなっています。また、「廃棄物対策とリサイクルの推進」について、重要度は中位であるが満足度は最も大きくなっているほか、「安全で快適な生活環境づくり」について、満足度は中位であるが重要度は最も大きくなっています。

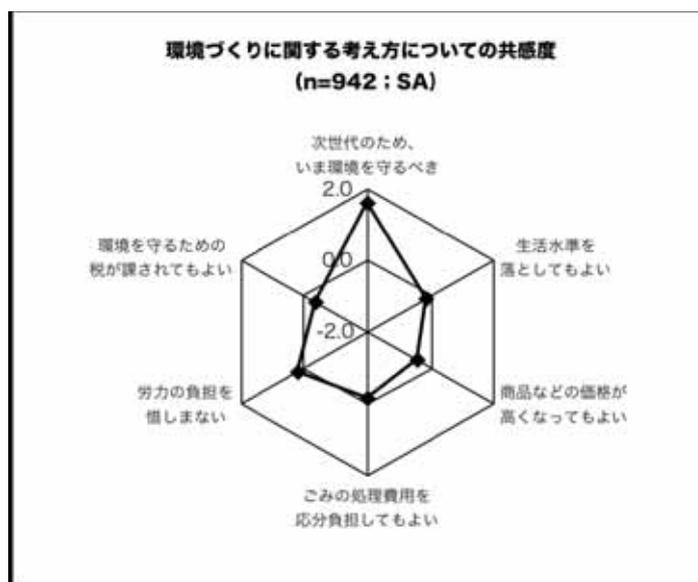


※ 「現在の取組みに満足している」かどうかについて、「そう思わない (-2)」「あまりそう思わない (-1)」「どちらともいえない (0)」「まあそう思う (1)」「そう思う (2)」の加重評点を与えて平均値を算出して満足度の指標とした。

また、「今後の取組みとして重要である」かどうかについて、「そう思わない (0)」「あまりそう思わない (1)」「どちらともいえない (2)」「まあそう思う (3)」「そう思う (4)」の加重評点を与えて平均値を算出して重要度の指標とし、これらを2軸2象限にプロットしている。

5) 環境づくりに関する考え方についての共感度

「次世代のため、いま環境を守るべき」で取組み程度が比較的大きくなっているが、その他の項目では小さくなっています。



※ 「よりよい環境づくり・環境保全に関する考え方」について、「そう思わない (-2)」「あまりそう思わない (-1)」「どちらともいえない (0)」「まあそう思う (1)」「そう思う (2)」の加重評点を与えて平均値を算出したものをプロットしている。

②長岡京 市民まちづくりセッション

1) 「長岡京 市民まちづくりセッション」とは

わが国では近年、「プランクストツェレ（計画細胞）」というドイツ起源の市民参加手法を参考として、「市民討議会」という市民参加型ワークショップが行われています。「長岡京 市民まちづくりセッション」は、他都市の「市民討議会」の取り組み事例に学びながら、スタッフによる独自の工夫のもとで企画したものです。

「長岡京 市民まちづくりセッション」は、他都市の「市民討議会」の取り組み事例に学びながら、スタッフによる独自の工夫のもとで企画したものです。

【市民討議会の特徴】

- 無作為に選んだ市民の中から、参加者を募集する。
- 討議に先立ち、必要な情報を提供する。
- 参加報酬を支払う。

2) 「長岡京 市民まちづくりセッション」の目的

「長岡京市環境基本計画（平成13年3月）」の改定にあたり、環境づくりに関して市民が感じる課題や関心を把握するとともに、環境づくりのためのアイデアや提案を求めて、計画内容に反映させることを目的とします。

なお、“サイレント・マジョリティー”と呼ばれる、これまで行政に声を届けるきっかけの少なかった市民層に対して参加を促して、その声を市政に生かそうとする試みでもあることから、実施結果を受けて、こうした市民参加手法の検証・評価を行うことも、併せて、目的としています。

3) 実施の経過とプログラム

【参加者の募集】

平成23年8月から9月にかけて実施した「長岡京市の環境づくりのための市民意識調査」の調査票配布の機会を生かして、平成23年8月1日現在の長岡京市住民基本台帳から無作為抽出した16歳以上の市民2,000名に対し、「長岡京 市民まちづくりセッション」と題した市民討議会の応募案内を送付しました。

案内には、参加者名簿登録承諾書及び参加希望表明書の書式を掲載し、必要事項記入のうえ郵便により返送してもらうことで参加者名簿登録への応諾者を得ました。応諾者69名より、性・年代のバランスを考慮した抽選によって40名を参加者として選定しました。

【開催概要】

平成23年10月15日（土）及び16日（日）の日程で開催し、参加者には2日間で6,000円の報酬を支払うこととしました。

1日目

10月15日（土）

13時30分から
18時30分頃まで

中央生涯学習センター
創作室1（バンビオ1番館6階）

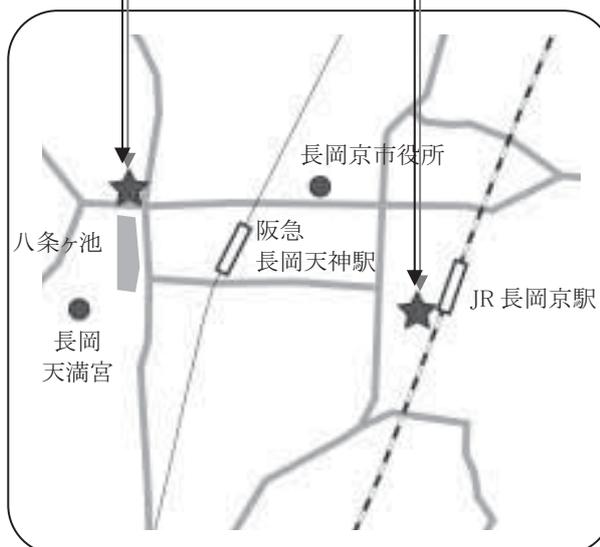


2日目

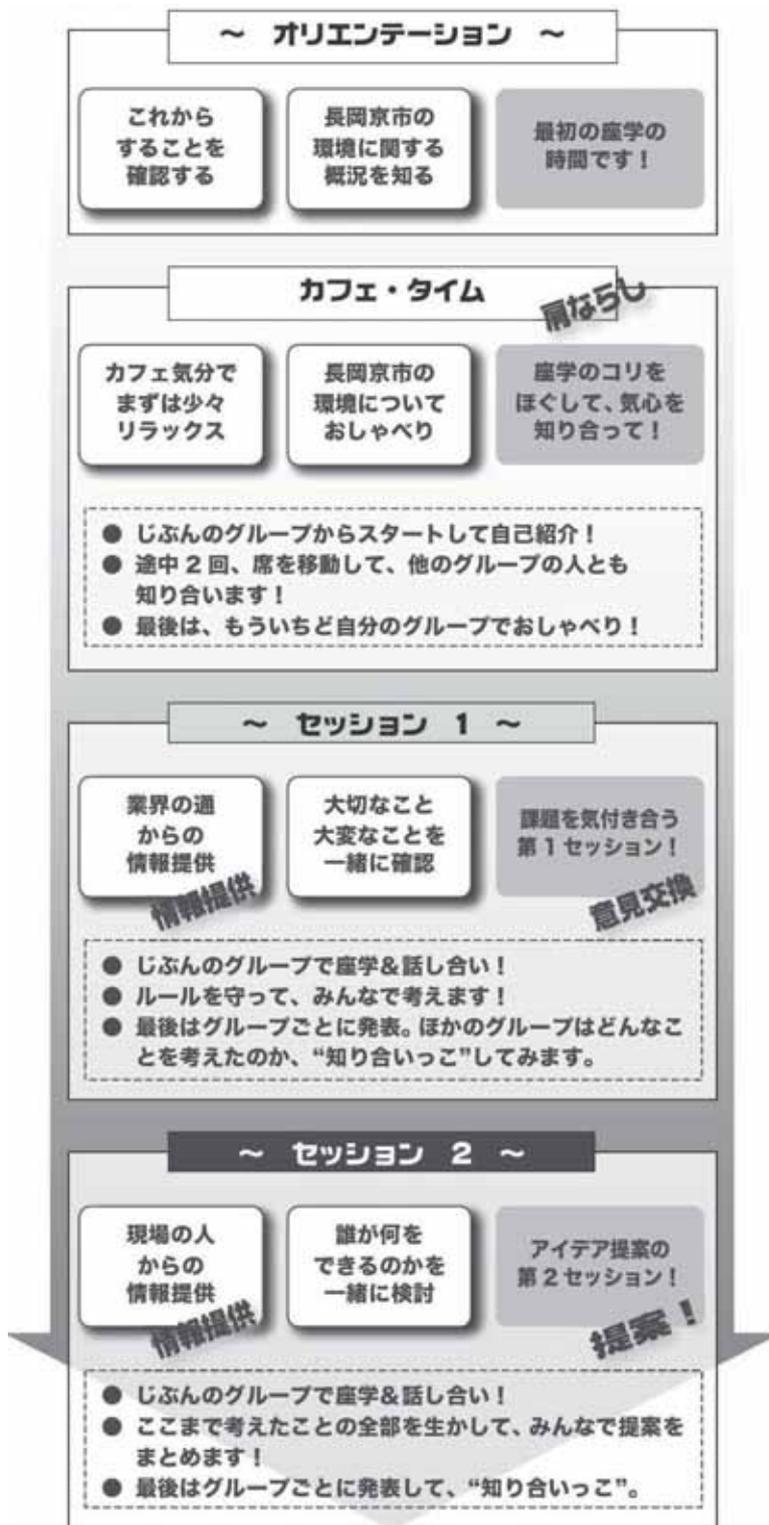
10月16日（日）

9時30分から
16時30分頃まで

長岡京市立図書館
3階 大会議室



【プログラムの概要】



左記のプログラムにより実施しました。

オリエンテーションのあと、「カフェ・タイム」としてワールド・カフェの方式を活用し、「長岡京市の『環境』よいところ・気になるところについて、語り合おう！」のテーマで対話の時間を設けました。

（情報提供者）

・京都府立大学公共政策学部公共政策学科3回生奥谷ゼミの皆さん
 続いて、アンケート調査結果などを参考に、以下のテーマ設定のもとで討議を行いました。

テーマ①：長岡京市の緑を守ること、つくること

テーマ②：長岡京市の温暖化対策

まず、「セッション1」として、学識経験者や関連機関職員、市職員からの情報提供を受けて、課題をつかむためのグループワークを行いました。

（情報提供者）

・京都府立大学公共政策学部公共政策学科 准教授奥谷三穂氏
 ・西山森林整備推進協議会
 ・財団法人長岡京市緑の協会
 ・地球温暖化防止活動推進センター
 ・市職員（環境政策監、公園緑地課）

その後、「セッション2」として、課題を踏まえての取組み提案を行って相互に発表し、成果を得ました。

15日 (土)	肩ならし▶▶課題をつかむ	16日 (日)	課題をつかむ▶▶提案する
～ オリエンテーション ～		～ セッション 1-2 ～	
13:30 (10分)	セッションは、一期一会の心！ 小田市長からの開会宣言！	9:30 (10分)	諸連絡
13:40 (10分)	趣旨説明、 スケジュール・基本ルールの説明	9:40 (30分)	よく知っとく・タイム！ 長岡京と地球温暖化って？
13:50 (30分)	ちょっと知っとく・タイム！ ①長岡京は、こんなまち（市の職員より） ②府立大生による、長岡京 環境レポート！		中休み
	衝撃！？	10:20 (60分)	文殊の知恵・タイム！ 何がタイセツ？ 何がタイヘン？
14:20 (60分)	肩ならし カフェ・タイム！ お茶とお菓子と自己紹介！		意見交換
	中休み	～ セッション 2 ～	
～ セッション 1-1 ～		11:20 (40分)	もっと知っとく・タイム！ 長岡京の緑を守る・つくる 実践レポート！
15:30 (45分)	よく知っとく・タイム！ 長岡京の緑を守る・つくる取り組み	12:00 (60分)	お昼休み
	情報提供	13:00 (30分)	もっと知っとく・タイム！ 長岡京の温暖化対策 実践レポート！
16:15 (60分)	文殊の知恵・タイム！ 何がタイセツ？ 何がタイヘン？	13:30 (120分)	文殊の知恵・タイム！ 20年後の環境未来へ、提案！
	意見交換		提案！
17:15 (15分)	諸連絡	15:30 (45分)	諸連絡（報酬お支払い等）
17:30 (60分)	懇親会（自由参加です）	16:15 (20分)	まとめと閉会

4) 参加者アンケート

プログラム終了後、参加者に対してアンケート調査を実施した。37件の回答が得られ、無作為抽出の参加者募集の手法についてなど、約8割の参加者から肯定的な回答が寄せられました。

◆実施結果の概要

各班から出された意見等の主要内容について、以下に整理しました。

1) 緑を守る・つくるための提案

ア) 西山・里山の保全のために

手入れなど維持保全、人を呼べる環境としての利活用に係る課題を踏まえた提案がなされた。市民がボランティア活動を企画すること、事業者による財政支援やマンパワー提供の仕組みをつくること、行政による企業顕彰やボランティア企画提案などを行うこと、地権者メリットを考慮した保全と整備の推進などについて言及されています。

＜課題に係る意見＞

- 西山の間伐材が使われていない。
- 西山、天王山ハイキング、街のハイキングを楽しむためにトイレを設置して欲しい。
- 水質保全のため西山の整備が大切。

イ) 竹林の整備・活用のために

放置竹林対策の提案として、竹林の整備と竹の利活用における事業性の創出のため、竹酢液や竹チップなど量的消費が見込める商材の普及や、その他の物産への水平展開などについて提案がありました。

＜課題に係る意見＞

- 放置竹林が多すぎる。
- 竹林の浸食が問題。
- 竹の有効利用が必要。等

ウ) 緑の保全と創出のために

家庭や地域、あるいは、公共空間における緑の保全と創出に関しては、広告収入を財源として花苗やプランター等を確保し、継続的に展開できる事業モデルの確立などについて提案がありました。

また、緑を守る心を育てるために、環境づくりに係るボランティア活動や里山学校の取組みを、子どもたちの学びに対して積極的に活用していくこと、地産地消を進めて生活に身近な農業を守っていくこと、良好な河川環境を地域ぐるみでつくっていくことなどが提案されました。

＜課題に係る意見＞

- まちなかの緑が少ない、公園が少ない。
- 川の土手に木が無い。
- 原っぱがない。
- 阪急・JR駅周辺に緑地を増やして欲しい。
- 田が減った。遊休田畑が多い。等



2) 温暖化対策の提案

ア) エコライフの推進のために

日常生活や事業活動における節電など、省エネ・省資源に係る各種の取組みをいっそう進めていくことについて、市民等の行動に係る多様な提案が出されました。とりわけ、正しい知識を情報として市民に伝えることの重要性が指摘され、学校教育を通じた子どもへの普及についても強調されました。また、自然エネルギー利用や温暖化について学ぶ機会づくりなどについても、促進を図るための提案がありました。

<課題に係る意見>

- 問題が大きすぎて分かりにくい!
- 子どもにも高齢者にもわかりやすい説明が必要。
- 省エネの分かりやすい広報を。
- 各家庭において、「今これは必要か」ということを考えて、生活していくべきである。
- エコ住宅は実行するのが難しい! 等

イ) 脱自動車依存のために

徒歩・自転車利用の促進や公共交通機関の利用促進、エコカーの採用など、多岐にわたる実践について提案がありました。

<課題に係る意見>

- 公共バスの充実を。
- 自転車活用に向けた道路や駐輪場の整備を。



③環境づくり関連団体アンケート調査、ヒアリング調査

【ヒアリング調査】

◆調査概要

1) 調査の目的

環境関連の活動を行う団体の取組みの実態や意向についてアンケート調査を実施しましたが、これを踏まえた上で、団体間や行政との連携のあり方、市民活動を中間的に支援する仕組みのあり方、行政による支援策などについて、対話を通じた意向把握を行うために実施しました。

2) 調査の対象

- ・アンケート調査回答団体のうち、調査協力に応諾頂いた団体。
- ・本市“環境の都づくり”の今後の展開上、聞き合わせが必要と考えた団体。

	対象団体
1	長岡京市環境の都づくり会議
2	下海印寺まちづくり協議会
3	乙訓の自然を守る会
4	長岡京市生活会議
5	長岡第四小学校区地域コミュニティ協議会
6	NPO法人竹の学校
7	長岡京市生活学校
8	里山再生市民フォーラム
9	長岡京市廃棄物減量等推進員会議
10	滝ノ町自治会
11	おとなりさん互助会
12	長岡第七小学校区地域コミュニティ協議会
13	竹援会
14	長岡京市女性の会
15	おとくにパオ

3) 調査の方法

- ・いくつかの団体の参加によるグループ・インタビュー形式を基本として実施しました。
- ・なお、日程等の都合により、「環境の都づくり会議」について単独での、また、「おとくにパオ」は電話での聞き合わせとしました。

4) 調査の内容

- ・アンケート調査結果の概要報告。
- ・団体活動における現状と課題についての確認。
- ・各団体のアンケート調査への回答のうち、特記的内容についての確認。
- ・「長岡京市環境基本計画」に基づく取組について、団体として寄与してきたこと、今後の推進に向けて寄与できることについての確認。
- ・長岡京市の市民環境づくり活動を中間的に支援する仕組みのあり方についての考え。等

◆調査結果の概要

ヒアリングにおいて出された意見等の主要な内容について、以下に整理しました。

会員が高齢化。後継人材の確保に苦慮！

多くの団体で、会員の高齢化と後継人材不足が課題として挙げられた。親子などを対象として活動することで若い人材の参加を期待する声、また、定年退職者の参加に期待する声があった。

(個別の内容)

- 会員35名の大半が60歳以上で、70歳までは活動できるとして、あと何年かしたら会員がいなくなってしまうという状況の中、定期的に会員が増える仕組みが必要。
- 会員は一人だけ45歳で、あとはほとんど60歳を超えている。
- 高齢者でもある一定の時期入ってきてローテーションを組んでいけたら良い。
- 若い人に入ってほしいが、みんな仕事をしている。特に正社員の人はなかなか難しいので、退職した人を狙っている。60代ぐらいで退職された方はまだ若いので。

活動情報の受発信について、公的な支援機能の強化を！

環境づくりに係る市民活動の情報を、広く市民に発信することの重要性が挙げられ、行政など公共公益的な情報発信機能を強化すべきことの指摘があった。また、インターネット以外の情報提供方法の充実を図るべきとの声もあった。

(個別の内容)

- 各団体が情報を個々に発信するのではなく、ひとつに集めて1か所から発信してくれるとよい。市から市民向けに発信するための輪があるとよい。
- 活動において、どこに話しを持っていくかという点、行政が主になるので、行政から情報発信していただくのがよい。
- 各団体が自発的に情報を発信することは困難なので、行政が音頭をとって情報をスムーズに流す仕組みづくりをしてほしい。
- ホームページは作っているが、若い人はよいが年配の方は情報活用が難しい。竹林や森林に行かれるのは年配の方が多く、本来、情報を求めている人が情報入手できない。そうするとクチコミでしかやりようがない。
- インターネットは検索しないが広報紙なら必ず目を通すという人も多い。皆さんの活動内容を逐次掲載し、定年の方などの人材の誘い込みやきっかけにならないか。

経済的支援から経営的支援へ！

活動資金の不足についての問題は様々にあるが、単なる補助ではなく、継続的な経営運営を行える仕組みづくりが必要であるとの意見があった。

(個別の内容)

- 資金源が非常に少ないので企業の協力があれば。お金ではなくモノでも良い、土日だけ車を貸してくれるとか。費用を掛けずに空いているものを利用できるとよい。
- 地域の中でも、無償ボランティアではなく、ちょっとでも有償にしないと責任持ってやらないとの指摘もあるが、補助金も限られているので謝金等はなかなか難しい。
- 長岡の竹林を維持しようとするなら整備が必要だが、ボランティアの力のみではダメ。竹が産業資材と用いられ、事業として成り立つ必要がある。
- タケノコ販売が資金源。売り先は身内である。去年一昨年と農協の事故があってしばらく休んでいたのが、今年再開してくれてだいぶ助かった。

地域人材を見つけて生かす工夫を！

地域人材を見つけて、市民活動における多様なニーズや行政ニーズへとつなぐための仕組みを求める声があった。

(個別の内容)

- 環境づくりに限らず、長岡京市には優秀な人材がたくさんいる。そういう人を発掘してボランティア活動などに引っ張り込むのが行政の力。
- 環境学習の講師など、市のホームページ上に人材リストがあったり、私たちもリストに載せてもらえたりできたらよい。ニーズにあったタイミングにも応じた人材と連携した活動ができるのでは。市内にはいろんな市民の方がいるが情報が入ってこない。

市民活動の中間支援の体制強化を！

上記4点を踏まえながら、本市において、市民活動を中間的に支援する体制をいっそう強化していくことが必要であるとの声があった。

(個別の内容)

- 昨年は39団体が参加する「長岡京竹あそび」を実施した。長岡は環境団体が多い中で、事務局の担い手として期待される。
- 「竹あそび」は核になる人が必要。一年で打ち上げてしまうのなら誰がなっても一緒。細くても長く持続していくことが一番大切。
- 竹林整備はひとつのグループだけではしんどい。市が旗振って各グループから30人ずつ出すなど、伐採とゴミ掃除だけでも何かきっかけを作らないと。
- 中間的なところから支援がほしい団体は多い。
- 市民活動サポートセンターには110団体が登録している。市民活動を活性化させるために先頭でけん引してほしい。

【アンケート調査】

1) 調査概要

◆調査の目的

この調査は、「長岡京市環境基本計画」の改定に向けた基礎資料として、長岡京市の環境づくりに係る団体からの意見を把握する目的で実施しました。

◆調査の対象

- ・長岡京市を活動拠点とし、環境に関する活動を行う30団体

◆調査の方法

記名方式として、平成23年12月1日（木）～平成23年12月16日（金）を調査期間として、郵送により実施しました。

◆回収の状況

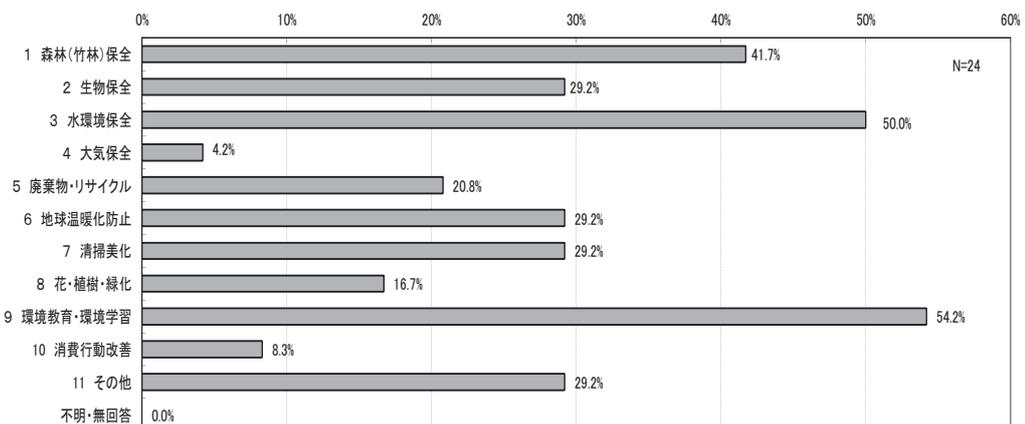
回収数24団体、回答率80.0%

調査結果の表記について：百分率については、調査の有効回答数（N）、あるいは当該設問の回答数（n）を基数として算出している。小数点第2位以下を四捨五入しているため、それぞれの数字の合計が必ずしも100.0%にならない。また、グラフまたは表内に示した記号のうち、SAは単数回答、MAは複数回答を示す。

ア) 団体概要

- ・活動分野は「環境教育・環境学習」が54.2%と最も多く、次いで「水環境保全」50.0%、「森林（竹林）保全」が41.7%となっています。
- ・活動形態は、「実践活動」が83.3%と最も多く、「普及・啓発」が54.2%となっています。
- ・活動エリアは、「長岡京市特定地域」が半数近くで45.8%、「長岡京市全域」が33.3%となっています。
- ・活動資金は、「行政補助」が70.8%、「会費」が66.7%となっており、これら2つが主な活動資金源となっています。
- ・会員数は「50人～100人未満」が29.2%と最も多く、次いで「25人～50人未満」が20.8%など、6割以上が100人未満の組織となっています。
- ・設立年は、「20年以上」が33.3%と最も多く、次いで「10年～14年」が25.0%となっています。

【活動分野】



イ) 現在の活動の上での課題

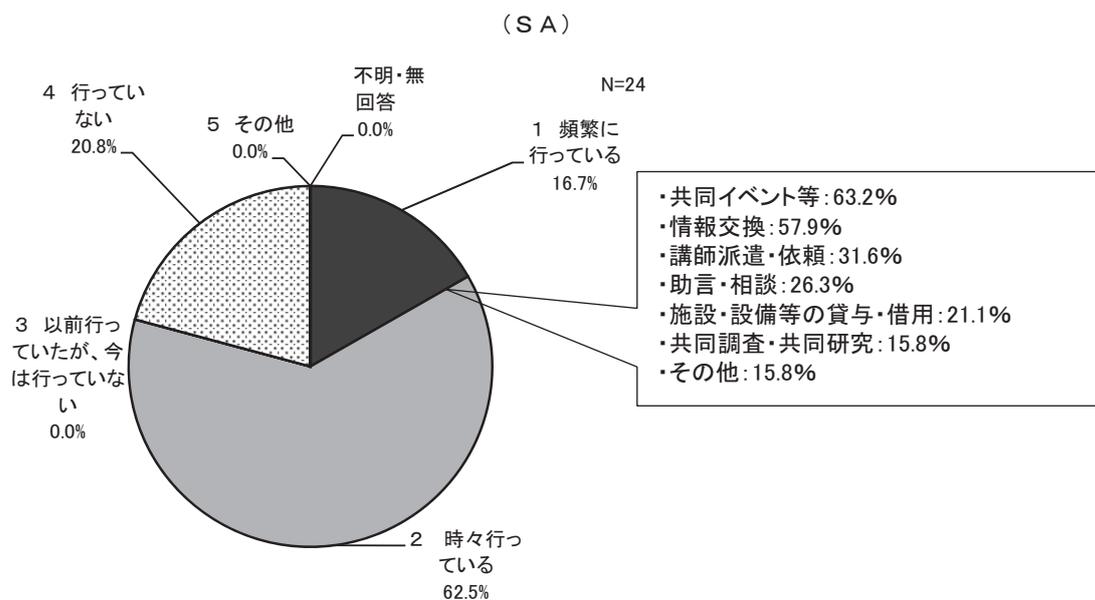
- ・担い手に関する課題が12件となっており、「高齢化」、「メンバーの確保」、「事業を進めたいが手が足りない」、「女性の参画が少ない」、といった課題が挙げられています。
- ・森林保全・自然環境の保全に関する課題が4件となっており、「森林の適正な管理」や「生態系の保全」等に関する課題が挙げられています。

ウ) 今後活動を継続していく上での課題

- ・担い手に関する課題が17件となっており、「高齢化」、「メンバーの確保」についての他に、「若い人材の加入」、「人材の育成」等の課題が挙げられています。加えて、若い人材の活躍の場をつくる点についても挙げられています。
- ・横のつながりや資金面、活動に対する意識づくりについての回答も寄せられました。

エ) 連携活動状況について

- ・「時々行っている」が62.5%と最も大きく、「頻繁に行っている」が16.7%となっており、行っている団体が8割近くとなっています。



オ) 情報発信

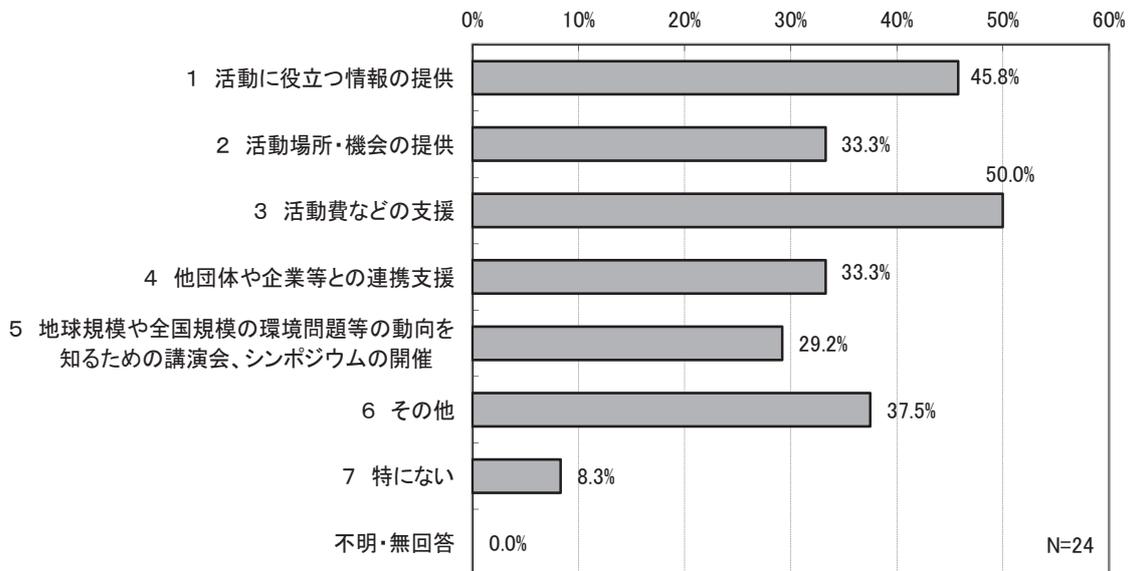
- ・会員向けの情報発信について、95.8%が「情報発信している」と回答しています。
- ・会員以外向けでも75%が「情報発信している」と回答しています。
- ・具体的には、会員向けで、会報誌やニュース、定例会、HPなどによる情報発信が実施されています。
- ・会員以外には、会報誌やニュース以外にイベント開催等による情報発信が実施されています。

カ) 今後の活動意向

- ・「森林・竹林整備や保全、生態系保全」に関する活動が7件、「子どもたちを対象にした活動」についても6件となっています。
- ・一方、これ以上、新たな活動が厳しいとの理由などから、「現状継続」を望む意見も4件出されています。
- ・その他には、横の連携、行政との連携等、「連携」を意識した活動について言及した意見が4件、「ホテル」に関連する活動、廃油回収など、「まちなかでの環境活動」、「市民ニーズへの対応、地域密着型の活動」が、それぞれ3件となっています。

キ) 活動を行う上で行政に求める点

- ・「活動費などの支援」が50.0%と最も多く、次いで「活動に役立つ情報の提供」が45.8%、「その他」が37.5%となっています。
- ・「活動費等の支援」については、様々な補助金、助成を望む意見が多く見られました。
- ・「活動に役立つ情報の提供」では、行政施策に関する情報や横の連携につながる情報等についての意見がみられました。



ク) 環境学習の推進への団体の関わり方

- ・竹や廃油を使った加工品づくりなど、「モノづくり、販売、料理等のノウハウの提供」についてが、6件と最も多くなっています。
- ・人的ネットワークや啓発など情報提供について4件となっています。
- ・環境活動への直接参加についても4件となっています。
- ・その他、人材育成・環境学習等に関する関わりについてが3件、体験活動の受入が2件などとなっています。

ケ) その他

- ・自由記述的な回答において、子どもたちを対象にした取組みについて積極的な関与を望む回答が目立ちました。

④事業者アンケート調査

1) 調査概要

◆調査の目的

この調査は、「長岡京市環境基本計画」の改定に向けた基礎資料として、長岡京市の環境づくりに係る事業者からの意見を把握する目的で実施しました。

◆調査の対象

- ・長岡京市内に事業所がある70事業者

◆調査の方法

記名方式として、平成23年12月1日（木）～平成23年12月16日（金）を調査期間として、郵送により実施しました。

◆回収の状況

回収数39事業所、回答率55.7%

(※宛先不明返送分4通を除くと59.0%)

調査結果の表記について：百分率については、調査の有効回答数（N）、あるいは当該設問の回答数（n）を基数として算出している。小数点第2位以下を四捨五入しているため、それぞれの数字の合計が必ずしも100.0%にならない。また、グラフまたは表内に示した記号のうち、SAは単数回答、MAは複数回答を示す。

2) 調査結果

ア) 事業者概要

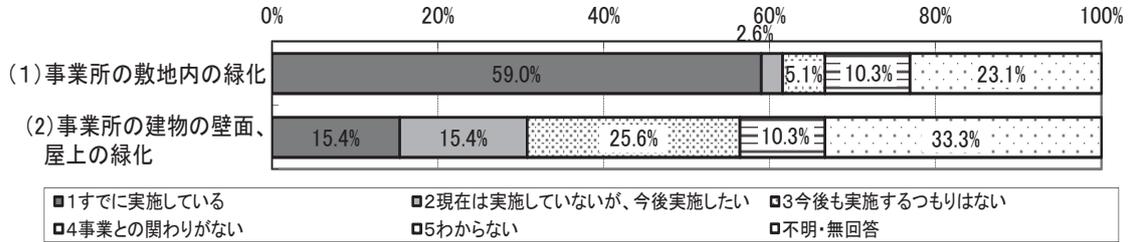
- ・「支社・支店・営業所等」が51.3%、「本社・本店」が46.2%。
- ・業種は「製造業」が最も多く64.1%となっており、次いで「金融・保険業」12.8%、「建設業」「卸売・小売業」が10.3%。
- ・従業員数は「100～299人」が最も多く28.2%となっており、次いで「10～29人」17.9%。
- ・操業年数は「30年以上」が74.4%。

イ) 事業所での身近な環境保全活動、意識について

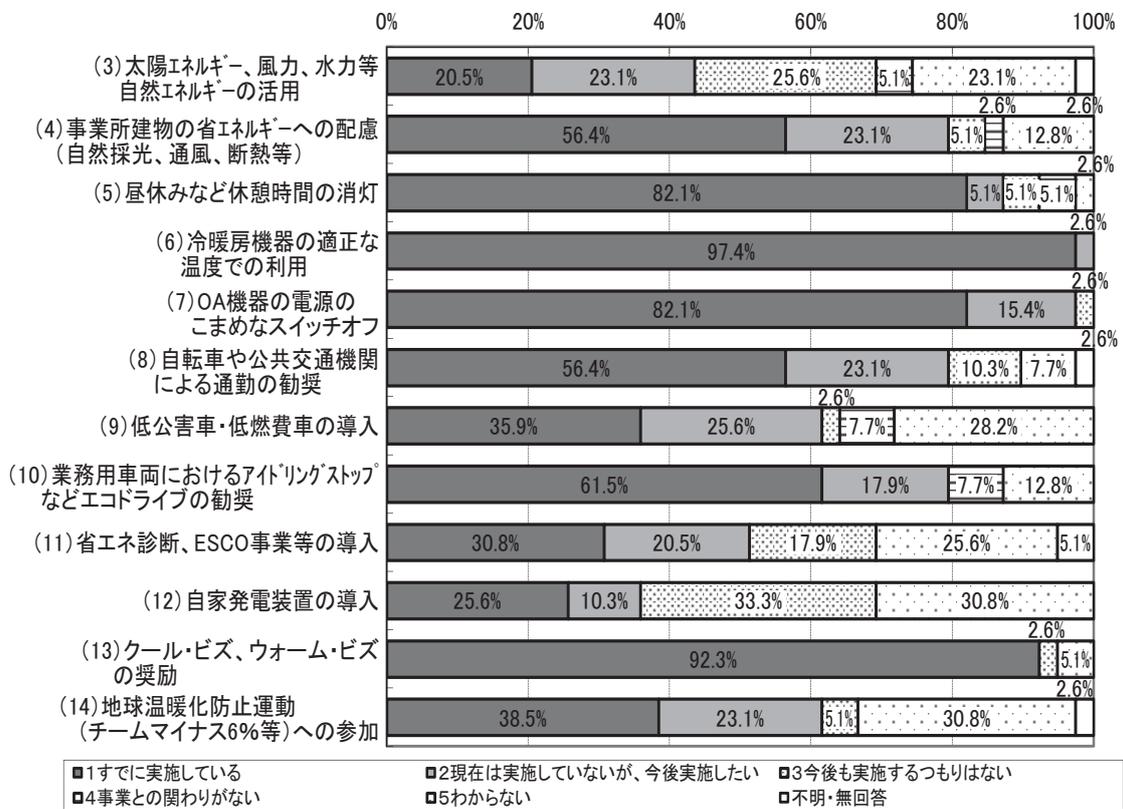
- ・「事業所の敷地内の緑化」については、「すで実施している」が59.0%と半数以上。
- ・省エネルギー・新エネルギーに関しては、「冷暖房機器の適正な温度での利用」や「クール・ビズ、ウォームビズの奨励」については、90%以上の事業所で既に取り組んでいます。
- ・「低公害車・低燃費車の導入」、「太陽エネルギー、風力、水力等自然エネルギーの活用」、「事業所建物の省エネルギーへの配慮（自然採光、通風、断熱等）」、「自転車や公共交通機関による通勤の勧奨」、「省エネ診断、ESCO事業等の導入」、「地球温暖化防止運動（チームマイナス6%等）への参加」については、現在は実施していないものの、今後の実施意向をもつ事業者が20%を超えています。
- ・水に関する取組みについては、「節水の取組みなど水道水の節約」については、69.2%の事業所で既に取り組んでいます。
- ・廃棄物・リサイクルに関する取組みについては、ほとんどの項目で80～90%が「すで実施している」と回答しています。

- ・地球環境保全に対する考え方については、「事業活動では、法に定める範囲以上の積極的な省エネ、廃棄物削減等の取組みを行うべき」、「事業に関わらない分野においても環境保全活動を行うべき」で、「そう思う」が半数を超えています。

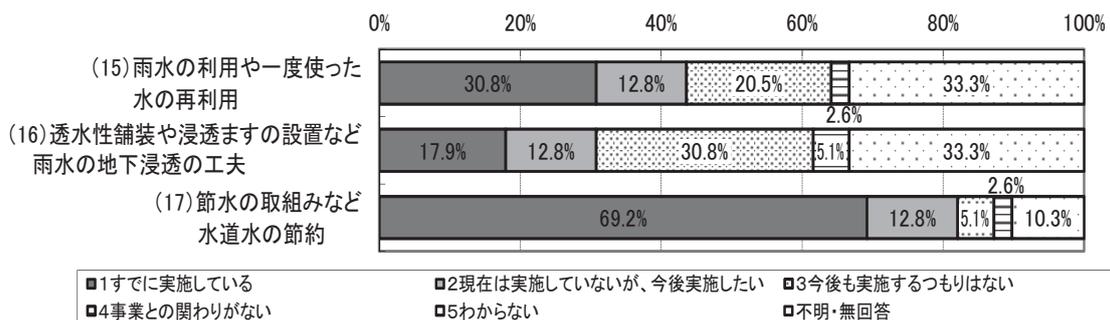
【緑化に関する取組み】



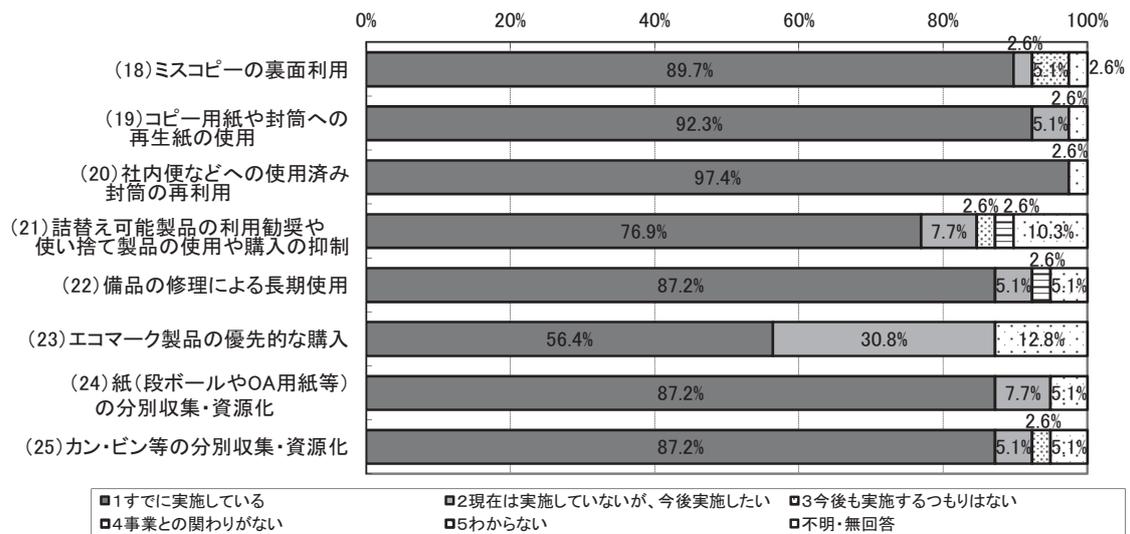
【省エネルギー・新エネルギーに関する取組み】



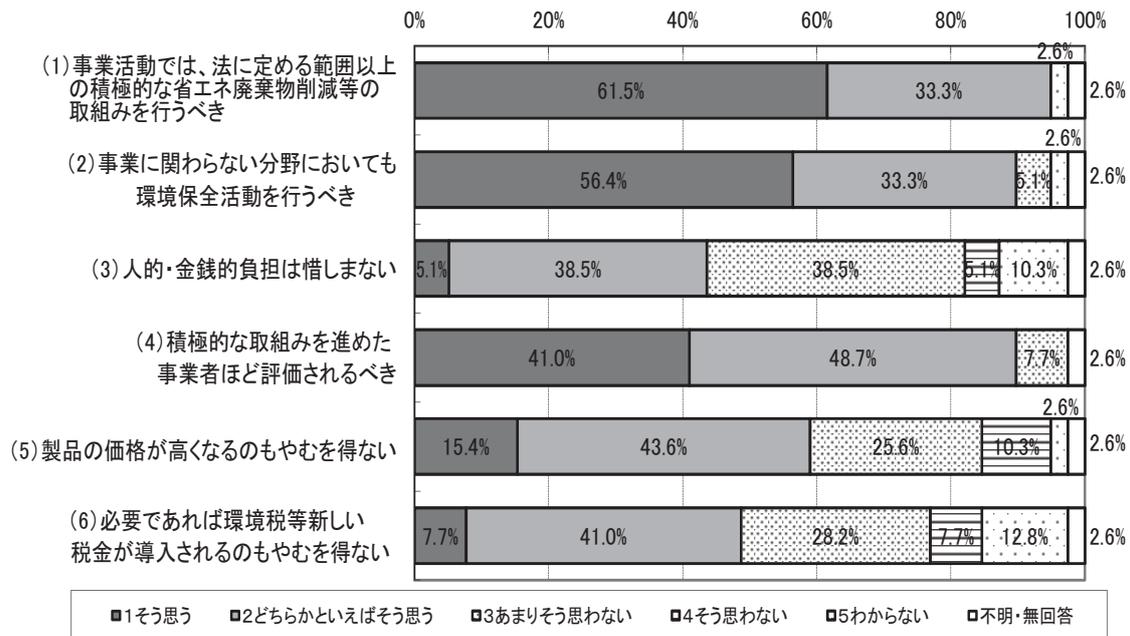
【水に関する取組み】



【廃棄物・リサイクルに関する取組み】



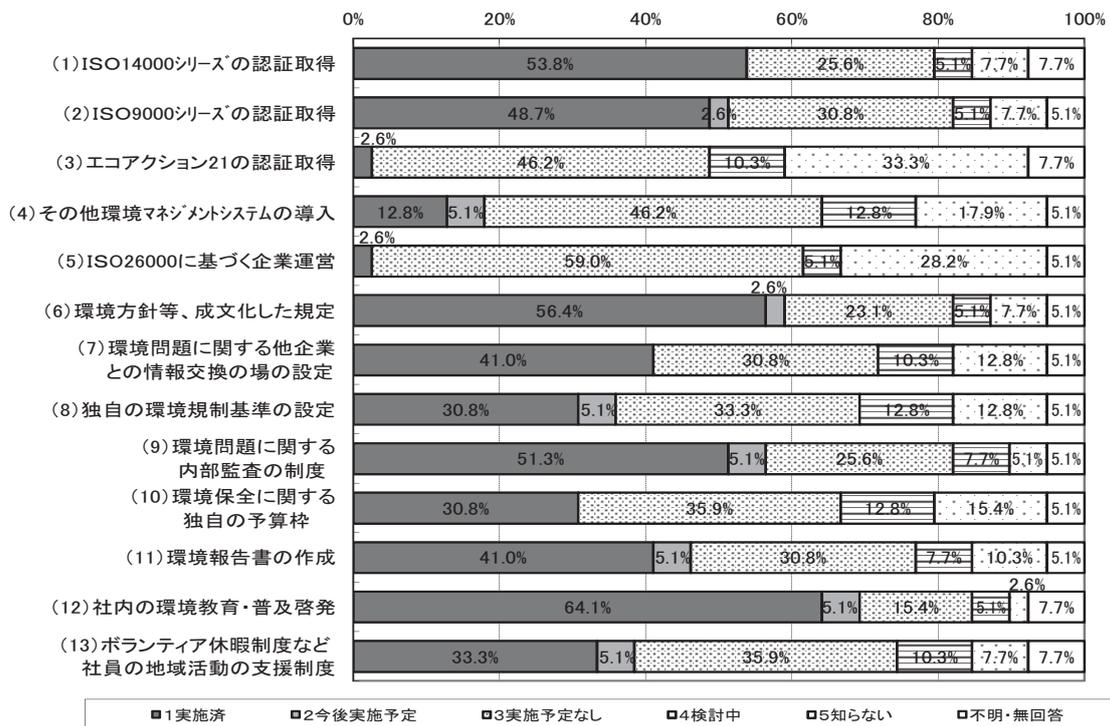
【地球環境保全に対する考え方】



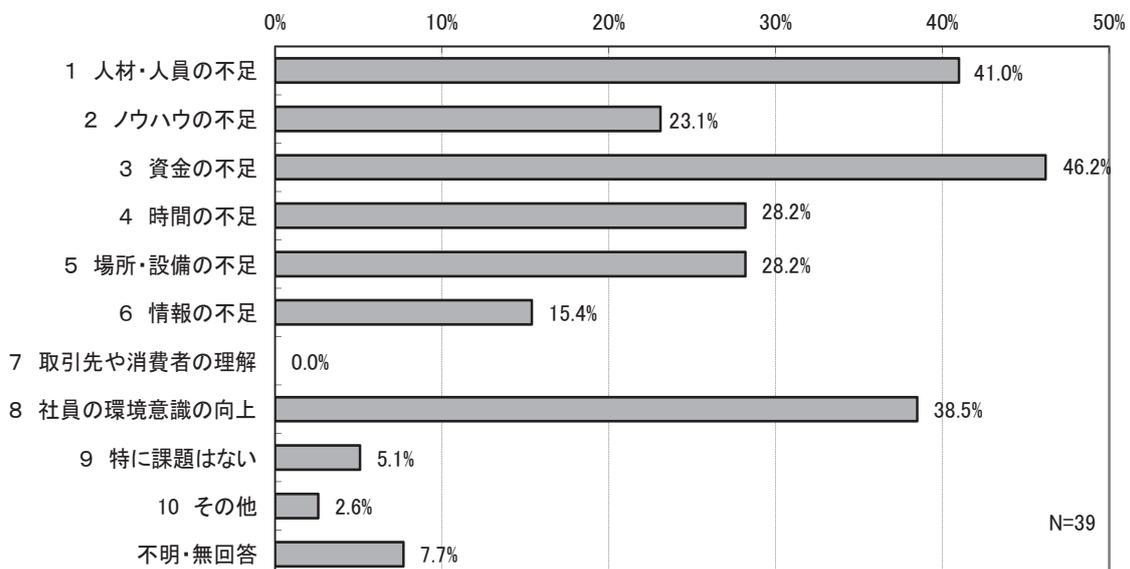
ウ) 環境に関する経営や管理手法について

- ・環境マネジメントシステムや環境に関する社内制度等について、「社内の環境教育・普及啓発」、「環境方針等、成文化した規定」、「ISO14000シリーズの認証取得」、「環境問題に関する内部監査の制度」で、「実施済」が半数を超えています。一方、「今後実施予定」についてはほとんどの項目で回答率が低くなっています。
- ・環境への取組みを進めるにあたって課題となることについて、「資金の不足」が46.2%と最も多く、次いで「人材・人員の不足」41.0%、「社員の環境意識の向上」が38.5%と続いており、経済面、人材や意識の面を課題に挙げる事業所が多くなっています。

【環境マネジメントシステムや環境に関する社内制度等】



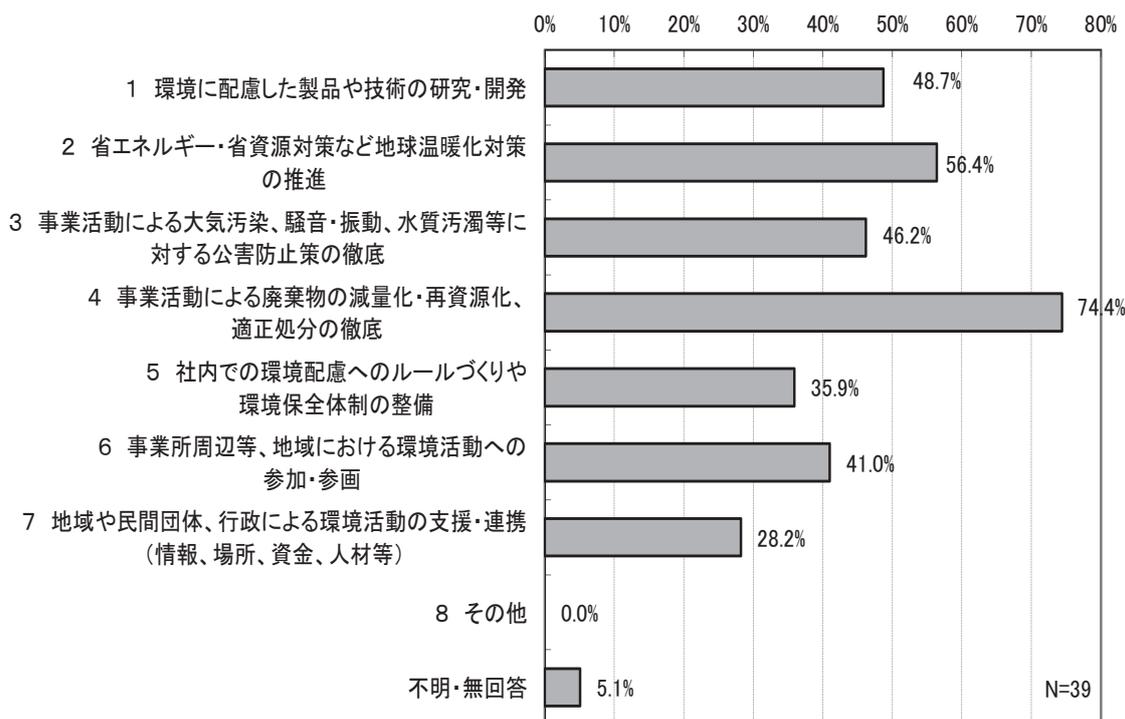
【環境への取組みを進めるにあたって課題】



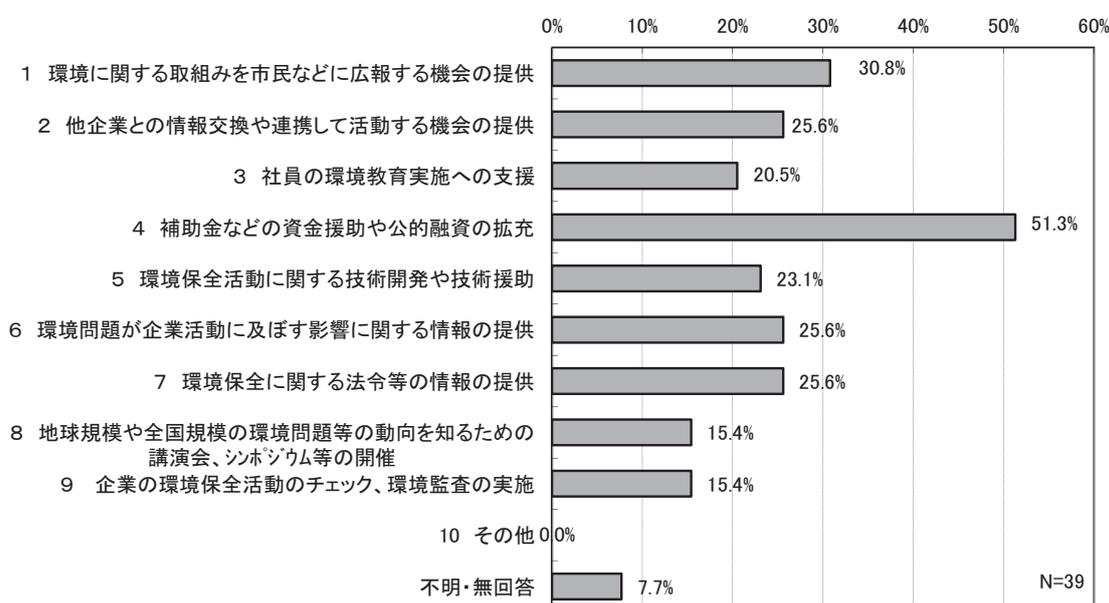
エ) 長岡京市の環境づくりに向けた事業者の役割や支援について

- ・長岡京市の環境づくりに向けた事業者の役割について、「事業活動による廃棄物の減量化・再資源化、適正処分の徹底」が74.4%と最も多くなっています。
- ・環境活動に対する行政の支援について、「補助金などの資金援助や公的融資の拡充」が51.3%と半数を超えています。

【長岡京市の環境づくりに向けた事業者の役割】



【環境活動に対する行政の支援】



2 策定経過等

(1) 策定経過

年月日	会議名等	経過及び概要
平成23年度	8月1日	第1回長岡京市生活環境審議会 (1) 会議及び記録の公開について (2) 現行計画の中間的総括について (3) 次期計画の策定方針について (4) 市民・事業所・団体等意識調査の実施について (5) (仮称)市民討議会について (6) 環境基本計画策定スケジュールについて
	8月19日～9月26日	市民意識調査 ○配布数2,000件
	10月15日～10月16日	長岡京 市民まちづくりセッション ○参加者40名 ○市民への情報提供「長岡京の緑を守る・つくる取組」、「長岡京と地球温暖化って？」 ○20年度の環境未来へ、提案！ ・緑を守る・つくるための提案 ・温暖化対策の提案
	12月1日～12月16日	環境づくり関連団体アンケート ○配布数30団体
	1月14日～1月27日	環境づくり関連団体ヒアリング ○15団体
	2月13日	第2回長岡京市生活環境審議会 (1) 基礎調査結果について (2) 次期計画策定方針案について
平成24年度	6月27日	第3回長岡京市生活環境審議会 (1) 環境基本計画策定スケジュールについて (2) 審議会委員アンケートについて (3) 次期計画骨子案について (4) 長岡京市環境シンポジウムについて
	11月28日	第4回長岡京市生活環境審議会 (1) 長岡京市第二期環境基本計画(案)について (2) シンポジウムについて (3) 今後のスケジュールについて (4) 環境モデル都市について
	2月19日	第5回長岡京市生活環境審議会 (1) 長岡京市第二期環境基本計画(案)パブリックコメントの結果について (2) 長岡京市第二期環境基本計画修正案について (3) 生活環境審議会答申案について (4) 平成25年度以降の体制について

(2) 長岡京市生活環境審議会 諮問

23長環監第18号

平成23年8月1日

長岡京市生活環境審議会

会長 白石 克孝 様

長岡京市長 小田 豊

“環境の都”長岡京の実現に向けた長岡京市環境基本
計画の改定について（諮問）

みだしのことについて、長岡京市生活環境の向上に関する基本条例第11条の規定に基づき、
下記のとおり諮問しますので、御審議くださいますようお願いいたします。

記

諮問事項：「長岡京市環境基本計画」の改定について

【諮問の理由】

長岡京市は、約1200年前には都が置かれた悠久の歴史を有するまちであるとともに、西山の自然に抱かれた豊かな水と緑と文化の香るまちとして発展してきました。

平成13年3月に策定しました長岡京市環境基本計画は、策定から10年を迎えました。多くの市民の皆様のご協力によって、先進的な環境基本計画として全国的にも注目されました。今日においても計画に掲げた「持続可能なまちづくり」の基本理念については、色褪せることなく輝きを放っています。

計画策定後の平成14年度に市民や各種団体、行政が協働して環境のまちづくりを担う「長岡京市環境の都づくり会議」の設立や「ISO14001認証取得」、平成17年度には「西山森林整備推進協議会」設立、平成18年度に「まちをきれいにする条例」制定、平成19年度に「長岡京市役所地球温暖化防止実行計画」及び「長岡京市一般廃棄物処理基本計画」の策定、平成20年度に「長岡京市環境基本計画実施計画」の策定などを行ってきました。そして、平成21年4月には、環境基本計画の理念を受け継ぎ「“環境の都”長岡京市環境都市宣言」を行い、自然と共生する持続可能な社会を目指すために、世代を超えた市民と企業や諸団体と行政が協働して、この恵まれた自然を未来の子どもたちへ継承するとともに、真に環境都市として誇れるまちづくりに取り組む決意を宣言しました。また、この宣言を広く市民の皆様へ周知するため環境ボランティア団体や事業所等の協力をいただき、平成21年度から環境フェアを開催しています。

平成22年3月には市域全体から排出される温室効果ガスの削減に取り組むための「長岡京市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）～持続可能な未来（アース）プラン～」を策定し、平成42年度における温室効果ガスの排出量を平成2年度比で40%削減することを定めるとともに、その中間年度の平成32年度までに25%の削減を達成することを目指して、市民、事業者、諸団体と行政がそれぞれの主体者として様々な取り組みを進めて行くこととしています。

このように、環境基本計画策定から10年、環境課題や社会経済状況に対応した施策を行ってきましたが、その変化はめまぐるしいものであり、計画に掲げる施策や行政計画としての進行管理の在り方の見直しが求められています。

以上のことを踏まえ、本市の環境保全施策の総合的かつ計画的な推進を一層図るため、貴審議会から本計画の改定について答申をいただきたく、諮問いたします。

(3) 長岡京市生活環境審議会 答申

平成25年2月21日

長岡京市長 小田 豊 様

長岡京市生活環境審議会
会 長 白石 克孝

長岡京市第二期環境基本計画案について (答申)

平成23年8月1日付け23長環監第18号で諮問のありました、長岡京市環境基本計画を改定し、長岡京市第二期環境基本計画案を作成しましたので答申します。

第二期環境基本計画は、平成13年3月に策定された環境基本計画の将来都市像である「つむぎ織りなす“環境の都”長岡京」を実現するために、およそ2022年度までに取組むべき施策の方向性を定めるものです。

本審議会では、この第二期環境基本計画案を作成するにあたり、平成13年度に作成された計画の基本理念とそのための戦略を継承しながらも、現在の環境課題や次の10年に取組むべき課題に重点を置き、審議してきました。

また、市では計画策定への取り組みとして、市民・団体・事業所アンケートの実施や京都府立大学学生によるフィールドワーク、無作為抽出による市民が参加された討議会「長岡京 市民まちづくりセッション」の開催並びにシンポジウム等を実施されました。本審議会においても、このような場から提案された幅広い市民のニーズや現状の施策に対する意識もできるだけ取り入れながら、基本施策という各分野において着実に実施されるべき施策と「ステップ・アップ・チャレンジ」という次の10年への行動提起を設定し、計画案を作成いたしました。

今後、この計画案の内容を十分尊重され、第二期環境基本計画案として結実されることを要望いたします。

(4) 長岡京市生活環境審議会委員（平成25年3月現在）

氏名	役職等
内藤 進義	市民公募
村上 綾子	市民公募
◎ 白石 克孝	龍谷大学政策学部教授
○ 小幡 範雄	立命館大学政策科学部教授
奥谷 三穂	京都府文化芸術振興課長
有兼 茂	長岡京市経済協議会
柴田 政代	長岡京市商工会理事
小泉 正次	長岡京市自治会会長会副会長
小菅 祥光	連合京都乙訓地域協議会幹事
秦 陽子	長岡京市女性の会会長
片山 洋子	長岡京市生活学校運営委員長
江川 宗治	長岡京市環境の都づくり会議代表
木南 敬之	京都府乙訓保健所環境衛生室長
山田 勝吉	長岡京市環境経済部長
中村 修	長岡京市教育委員会教育部長

※「◎」印が会長、「○」印が副会長

長岡京市第二期環境基本計画

平成25年3月

長岡京市環境経済部環境政策監

〒617-8501 京都府長岡京市開田一丁目1番1号

電話：075-951-2121（代）